

【平成30年度矢口小学校授業改善プラン】

体育科における平成29年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

- ・器械運動で低学年のうちに感覚づくりの時間を重視したことで、発展した技にスムーズに取り組むことができた。
- ・自己の課題についての解決の仕方を見付け意図的に取り組むことのできる児童の割合が少ない。

体育科における内容別・観点別分析

	運動や健康・安全への関心・意欲・態度	運動や健康・安全についての思考・判断	運動の技能	健康・安全についての知識・理解
観点別結果の分析	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に運動に取り組む、意欲的に体育の授業に取り組む児童が多い。 ・勝敗を素直に受け入れることや友達と協力して準備するという態度面の目標は、高学年になると8割程度の児童が達成している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どの領域でも、高学年になると、「自己の能力に適した課題の解決の仕方を見付ける」ことが求められる。自己の課題を把握することは出来るが、解決の仕方を見付けて意図的に取り組むことのできる児童は6割程度と少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 【器械運動系】 ・特にマット運動において「回る」感覚がつかない児童が多く、高学年になっても前転・後転が上手くできない児童が多い。 【陸上運動系】 ・短距離走・リレーでは、スタートやカーブで体を傾けて走ることができる。 【水泳運動系】 ・泳げる児童と感覚がつかめない児童との差が開いている。泳ぐことが難しい児童の中では、特に平泳ぎについて習得が難しい。 【ボール運動系】 ・ベースボール型について、経験の少なさから「打つ」「投げる」「捕る」の技能の習得が全体として難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・心の発達並びに不安や悩みへの対処法について理解している。 ・けがの防止について理解するとともに、けがなどの簡単な手当ができる。

授業改善のポイント

分析を受けて、取り組む柱

- 【低学年】 どの領域においても、『感覚づくり』の時間を大切にしながら取り組む。
- 【中学年】 運動量を確保した授業展開で、運動に触れ合う機会を増加する。
- 【高学年】 課題解決の助けになるよう、課題の解決の仕方を選んで授業づくりをする。

体育科の授業改善策

柱をより具体的な活動へ【全学年共通】

- ・運動に合った人数のグループで活動することで、見合うことで課題を見付けられるようにする。また、掲示物等を工夫し、解決の方法が見つかるようにする。
- ・学習カードを活用し、自分やグループの動きについて随時、振り返るようにする。自分に合った目標を設定しながら運動できるようにする。
- ・教師の説明は的確かつ端的に行い、児童の活動が多くなるようにする。

平成30年度の成果と課題

- ・
- ・